



3つの勇気 ～6年生に話したこと～

先週、6年生の子どもたちに「3つの勇気」について話をしました。

勇気とは、恐怖や不安、躊躇を感じながらも、自分の信念を貫き、困難な状況に積極的に立ち向かう強い心意気のことです。安全なエリアから一歩踏み出し、行動するエネルギーと言えます。

勇気には様々な種類がありますが、6年生には次の3つについて話しました。

身体的勇気

身体的な危険を伴う状況で発揮される勇気

道徳的勇気

正しいと信じることをために反対や批判を恐れず行動する勇気

心理的勇気

失敗して傷つくことを恐れずに、新しいことに挑戦する勇気

勇気ある行動は、他者に危害を加えず、社会にとって建設的であることが大事です。例えば自爆テロのような行為は、たとえ恐怖に立ち向かっていても決して勇気ある行為とは言えません。

6年生はまだ小学生です。「身体的勇気」は尊い命を無くしてしまう危険があるので大人に任せることが大事であることを話しました。



少しの勇気をもって行動してほしい

6年生は、これまで学校の代表として、相撲や水泳、陸上の大会ですばらしい成果を上げました。また、暗唱チャレンジの全員合格や学カトライアスロンの意欲的な取組など、“スゴ6”（すごい6年生）としての姿を示してくれています。

今後は南小の最上級生として、日常生活において“少しの勇気”をもって行動し、仲間と自分のしあわせを創るハピネスクリエイターとしてリーダーシップを発揮してほしいと強く願っています。

私が、暗唱チャレンジの最後の課題を、「勇気」の詩にしたのは、このような思いがあるからです。



立冬から小雪を迎える時季に ～動きの少ない11月は安定しているようで不安定～

酷暑の夏を過ごし、涼しくなつてようやく秋だなあと思ったのも束の間、いつの間にか寒さで朝布団から出るのが辛い時季になってしまいました。秋が本当に短くてびっくりしますね。

さて、学習発表会が終わり、11月は教師も子どももホッとひと息つきたい時でもあります。しかし、学級の「荒れ」が多く表出してくる時期がこの時期です。発表会までは、学年全体が一つの目標に向かい一丸となって進む雰囲気生まれます。本番を終えた後は、発表をやり切り充実感で一杯のはずです。が、中には、「燃え尽き症候群」に陥ってしまう子もいます。こんな時期こそ日常を大切にしたいと思います。穏やかな日常があるからこそ、安心して目標に向かって進むことができます。

そのために、次の2つのことを大事にしていきたいと思います。

「定型に従った」リズムづくり

学級朝の会で「おはようございます」をして、帰りの会で「さようなら」をするまで、時間割通りの一定のリズムで過ごすようにします。「定型に従う」というと、何やら窮屈な感じがするかもしれませんが、実はそうではありません。人は、ある程度規則性をもったものに安心感を覚えるものです。

規範意識は身近な整理整頓から

学級の乱れは、例えば、忘れ物の増加に表れます。心が乱れ、そして生活態度が乱れます。乱れているときには、何かをそろえてみるのが大切です。机やロッカーの中の整理整頓に心がけさせます。規範意識は、身近な整理整頓から育ちます。きれいに整えることによって清潔観念が育ちます。そして、生活態度に落ち着きが生まれ、忘れ物も減ってきます。



☆裏面に暗唱チャレンジ！「勇気」に合格した子ども達の写真を掲載しております☆

暗唱チャレンジ「勇気」合格者①

